

事業名		地区名													
国営かんがい排水事業		ひのがわようすい 日野川用水（一期・二期）													
県名	福井県	関係市町村名	武生市、鯖江市、福井市 南条町、今立町、清水町												
事業概要	本地区は、福井県のほぼ中央に位置し、九頭竜川水系日野川沿いの武生市外2市3町にまたがる5,610haの水稲を中心とした穀倉地帯である。 地区内のかんがい用水は、日野川本川とその支線を主水源としているが、流域が狭小なため用水不足を生じており、これを地下水や溜池、反覆利用等により補給している。しかし、これらの施設は小規模なものが多く、併せて老朽化による機能低下が著しいことから用水不足が一層厳しいものとなり、農業の近代化の阻害要因となっている。 このような状況に対処するため、本事業で、日野川支線榎谷川に築造する榎谷ダムと、日野川本線からの導水施設として二ツ屋頭首工を設けて安定した水源を確保するとともに、日野川上流部の既存堰を八乙女頭首工に統合し、下流部への用水補給を行う主幹線用水路を新設するものである。併せて関連県営及び団体営事業により末端水路の整備、区画整理等を行うことにより水需給の安定と農業生産基盤の合理化を図り、大型機械化体系の導入を促進し営農の合理化による農業経営の近代化を図るものである。 なお、本事業は農業用水（農林水産省）、上水道用水（福井県）、工業用水（福井県）、及び治水（福井県）の4者による共同事業である。														
要	受益面積 5,610ha 主要工事計画 <table> <tr> <td>榎谷ダム</td><td>1箇所</td><td>頭首工</td><td>2箇所</td></tr> <tr> <td>幹線用水路</td><td>1箇所</td><td>導水路</td><td>3.2km</td></tr> <tr> <td>水管理施設</td><td>1式</td><td></td><td></td></tr> </table> 総事業費 61,876百万円（平成13年度時点55,442百万円） 工期 昭和56年度～平成17年度（同上 昭和56年度～平成17年度）			榎谷ダム	1箇所	頭首工	2箇所	幹線用水路	1箇所	導水路	3.2km	水管理施設	1式		
榎谷ダム	1箇所	頭首工	2箇所												
幹線用水路	1箇所	導水路	3.2km												
水管理施設	1式														
評価	【事業の進捗状況】 平成12年度までの進捗率は、事業費ベースで71.0%である。主要施設である榎谷ダムは、平成11年10月から堤体盛立を開始し堤高100.4mのうち、56mの盛立が完了している。また付帯する二ツ屋導水路については全長3.2kmのうち1.4kmが完成し、二ツ屋頭首工は平成13年度より本体着手を予定している。 八乙女頭首工は平成11年度に完成し、主幹線用水路については、全延長17.7kmのうち平成12年度までに8.9kmが完成し、八乙女頭首工とともに平成12年度より一部供用開始している。														
価	【関連事業の進捗状況】 平成12年度までの関連事業全体の進捗率は、事業費ベースで65.6%となっている。事業別では、県営かんがい事業が60.1%、県営土地改良総合整備事業が83.7%、ほ場整備事業が88.4%、県営中山間地域総合整備事業が54.9%となっており、順次計画的に事業が実施されている。														
項目	【社会経済情勢の変化】 地区関係市町においては、農家数及び農業就業人口は減少傾向にあるものの、農地の集積等により大規模経営農家（経営耕地面積5ha以上の農家数は平成2年56戸から、平成12年には102戸）が増加している。また、農業生産基盤の整備の進展に伴い、大型農業機械の導入による生産組織の強化など、低コストの取り組みが進んでいる。 主要作物では、大麦、大豆の作付面積が大きく増加しているとともに、野菜類では都市近郊農業として多品目化が進んでいる。 なお、農業粗生産額は、基幹作物の動向に左右され、7割を占める米作において、米の生産調整対策や、米価の低迷の影響により減少傾向にある。														

評 価 項 目	【事業計画の重要な部分の変更の必要性の有無】 ① 主要工事計画：榎谷ダム及び二ツ屋導水路、頭首工とも計画どおり実施している。 八乙女頭首工は完成し主幹線用水路についても計画どおり実施している。 ② 事業費：事業費の変動はみられない。
	【費用対効果分析の基礎となる要因の変化】 本事業では作物生産効果、営農経費節減効果、維持管理費節減効果及び更新効果を主な効果としている。 平成12年の現計画策定以降、市町等の農業振興の方針に変更はない。 その他の効果分析の基礎となる要因には大きな変化はみられない。
	【事業コスト縮減等の可能性】 コスト縮減については、これまでも建設発生材の利活用、施工工法の創意工夫によるコスト縮減の努力を重ねてきた。 今後も、残された工種の施工に先立ち、コスト縮減の可能性について十分な検討を行い事業費の縮減に向けて取り組む。
	【関係団体の意向】 1. 土地改良区 本地区は、農業用水不足を生じているため、榎谷ダムを築造し、水源の確保を行うとともに、八乙女頭首工及び幹線用水路等を整備することにより農業用水を安定供給するものである。八乙女頭首工及び幹線用水路の一部は供用開始しており、国営付帯県営事業等も着実に進捗していることから、本事業についても予定完了年（平成17年）に向け事業を推進されることを要望する。 2. 市町村 本事業は、安定した農業用水の確保を目的とした事業であり、地元農家の期待は大きく、今後もコスト縮減に取り組むとともに、早期完成に向けて一層の事業推進を要望する。 3. 福井県 本事業は、当該地域の農業の振興と地域の発展にとって重要な事業であり、平成15年度（一期地区）及び平成17年度（二期地区）の完了に向けて、計画的な事業実施と早期の効果発現が必要である。なお、今後施設の維持管理に十分配慮した水管理システムを構築することが必要と考える。
【評価項目のまとめ】 本地区は、榎谷ダムを水源として安定的な農業用水を確保し、農業生産基盤の合理化を図ることにより、農業経営の安定化に大きな効果が見込まれる。 主要施設については、昭和56年度着工以来着実に事業を進捗し、八乙女頭首工及び幹線用水路の一部は供用開始し事業効果を発現しており、関連事業も順調に進捗している。 また、現計画を平成12年度に策定しており、事業計画の重要な部分の変更の必要性は無く、効果分析の基礎となる要因にも大きな変化は見られない。 本事業に対する地元の期待は大きく、今後もコスト縮減に向けて取り組むとともに、関連事業と連携を図りながら、平成17年度完了に向け着実に実施する必要がある。	

【第三者委員会の意見】

本地区は、農業用水の不足を生じているため、榎谷ダムを築造し水源の確保を行い、頭首工等、基幹水利施設を整備することにより、農業用水を安定供給するものである。

また、併せて水道用水及び工業用水と日野川沿川地域の水害を防止する治水事業との共同事業であって、本地域の振興を図る上で本事業の必要性は高い。

水源の確保は将来的に重要であり、県及び関係団体並びに地元農家の期待は大きく、本事業の早期完成を要望していることから、事業の着実な進捗を図り、効果の早期発現に努力するとともに、榎谷ダムの完成後においても、その多面的な活用に配慮されたい。

また、従来からコスト縮減に努力しているが、新工法の採用などが一層進むよう引き続き取り組まれたい。

【事業の実施方針】

事業計画に基づき、今後ともコスト縮減に努めつつ、事業を着実に推進し、効果の早期発現に努める。